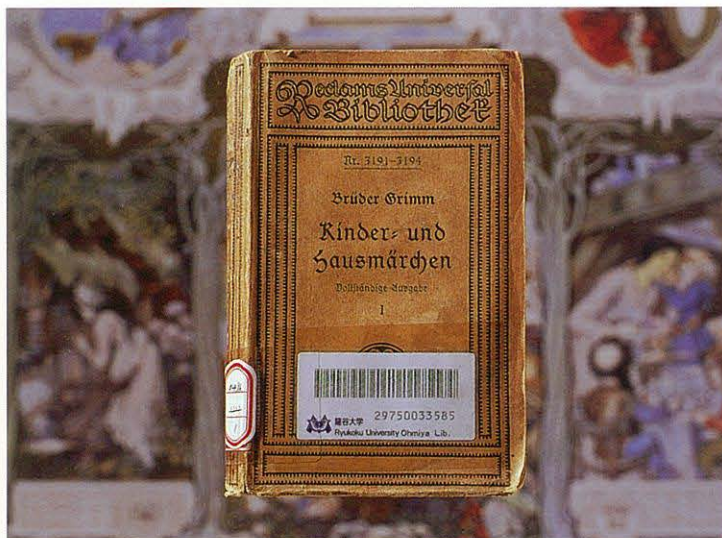


# 来・ぶ ら り



《Kinder-und Hausmärchen》  
龍谷大学図書館所蔵

グリム兄弟の「子どもと家庭のメルヒェン」は1812年の初版以来、1857年の7版まで改訂・増補が重ねられた。その第5版1943年版のレクラム文庫が本学大宮図書館にある。ちなみに岩波文庫はレクラム文庫をモデルにしたものである。

## 本と私

中山 淳子

私の専門はドイツ文学、特にグリム兄弟のメルヒェンや伝説である。メルヒェンという言葉は20年ほど前、ドイツとは全く違う概念で日本に定着した。今、グリムはブームになって、本当ではないグリムの話が本当であるかのように思われて私は困っている。

図書館といえば、ドイツの「グリム文庫」を訪れたときのことが忘れられない。

一応グリム研究者であると名乗った。すると係りの人は文庫を全部案内し、最後に「子供と家庭のメルヒェン」のオリジナルや彼らの絵なども見せてくれた。グリム兄弟は日本なら本居宣長のような存在で、ゲルマン語の文献学者であった。「ドイツ文法」、「ドイツ神話学」、「ドイツ辞典」に「メルヒェン」が4大業績である。長兄ヤーコプは生涯独身で、部屋からは本をめくる音だけが聞こえたというが、絵もうまかった。弟の一人は絵描きになり、メルヒェンを集めたころの状況を描き残している。

そのうち係りの人は私を一人にして部屋を出てしまった。170年も前のオリジナル本には兄弟の自筆の書

き込みがある。私が生きたグリム兄弟に会ったように感激してページをめくっていると、四つ葉のクローバーがはらりと出てきた。見つけた日付と場所が弟の手で書き込まれている。私は興奮のあまり呆然となった。

突然現れた外国人に研究のためならと貴重本を惜しみなく見せ、しかも全幅の信頼を置いて一人にしてしまったことにも驚いた。図書館の本が傷められる、ページが切り取られるといった日本からみると、四つ葉のクローバーが170年もちゃんと挟まっていたのは驚異だ。貴重な宝を後世に残すことは図書館を利用する者の義務である。

今、時代は急速に変わり、図書館も電子化されていく。私が1989年に本学社会科学研究所で行った岐阜経済大学助教授山田善久氏との共同研究で作った「グリム・データベース」も、ドイツの国語研究所からインターネットで世界に公開されている。でも電子メディアから四つ葉のクローバーは出てこない。

(経営学部教授)

## 目次

|                  |                         |   |
|------------------|-------------------------|---|
| 本と私              | 経営学部教授 中山 淳子            | 1 |
| 必見！図書館の歩き方       | (検索ツール大特集)              | 2 |
| ●教えて！臓器移植問題について！ | ●あの人について知りたい            |   |
| ●少年法ってよく聞けれど……   | ●なんだったの？パブル経済           |   |
| 公募エッセイ 第三の教室     | (’96.3大学院法学研究科修了) 志津木 敬 | 8 |
| 私にとっての図書館        | (’99.3大学院文学研究科修了) 江坂 信幸 |   |

# 必見！

# 図書館の歩き方

## 検索ツール大特集

新聞や雑誌を読んだ時、またレポート・論文作成の時etc. 情報や資料が欲しい場合、どのようにしてその情報や資料にたどり着いたらよいのか困ったことはないでしょうか？

家から目的地まで行くのに電車、バス、徒歩などいろいろな手段、ルート設定があるように、社会にあふれている情報にたどり着くにもいろいろな方法（歩き方）があります。

ここでは具体的な事例を用いて、情報・資料の探し方の一例を紹介しましょう。

……その前に

ここで使われる用語説明（読んでいてわからない用語があればここを見て下さい）

| 用語      | 意味                                                                   |
|---------|----------------------------------------------------------------------|
| 書誌      | 図書や雑誌記事等の著者・書名・出版社・出版年などの情報                                          |
| 目録      | 書誌と混同されるが、目録には所在情報が備わる                                               |
| ツール     | 効率的に情報（源）検索を行うための補助的手段（道具のこと）                                        |
| 日本十進分類法 | あらゆる資料を主題（テーマ）に基づき体系的に配列することを目的とした分類方法                               |
| OPAC    | オンライン閲覧目録 コンピュータ化された閲覧目録であり端末にて検索できる                                 |
| 白書      | 経済・社会の実体や行政活動の現状・問題点などを国民に知らせるため、各省庁などが1年ごとに発表する物。現在では民間からも多数発表されている |
| 年鑑      | 年間の概要を中心に、統計・表・図等を用いて解説された年1回の継続出版物                                  |

## 教えて！臓器移植問題について！

**Q** 最近コンビニに置いてあるドナーカードを見て臓器移植について関心を持ちました。なぜ、そんなに話題になるのかちょっと調べたいのですが……。

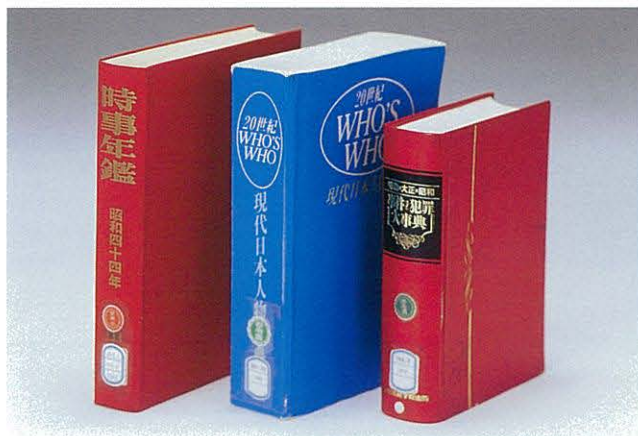
**A** 一般的な臓器移植に関する情報を得ようと思うのであれば、「OPAC」にて検索すると良いでしょう。また、ある程度テーマが決まっていれば、『雑誌記事索引ファイル』（日外アソシエーツ [http://opac.lib.ryukoku.ac.jp/nb/db\\_page.htm](http://opac.lib.ryukoku.ac.jp/nb/db_page.htm)）を使って下さい。（学内オープン端末からのみアクセス可）そこで見たい雑誌を探し、「OPAC」で検索し

ます。それでも分からない場合はカウンターまでお越し下さい。ここでは、漠然と臓器移植に興味があるようなので、直接書架をのぞいてみましょう。深草、瀬田図書館では、和書は『日本十進分類法新訂8版』に基づき主題別に並べています。主題で調べると医療倫理は490.15ですから、その周辺を探すと見たい文献がたくさんあります。分類表は各図書館カウンターに置いています。

**Q** 日本で初めて行われた臓器移植は以外と早く1964年の腎移植が最初でした。しかし、日本初の心臓移植については1968年に札幌医大の和田寿郎教授が日本の移植史上、最大の事件（和田事件）をおこなっています。その事件について、また当時の状況についても詳しく調べたいのですが。

**A** 質問の内容を整理すると「和田事件とは何か、事件そのものについて調べたい」のが1点と「和田事件が当時どのように社会的に評価されたか」の2点です。

前者については「専門事典」を見るのが良いでしょう。例えば事件であれば『明治・大正・昭和事件&犯罪大事典』（東京法経学院出版）があります。



また、和田寿郎という人物名に注目するなら『現代日本人物事典』（旺文社）からも和田事件に関する情報を得ることができます。和田事件を日本の出来事としてとらえるならば『時事年鑑』（時事通信社）等の年鑑類を利用するのも良いでしょう。

後者については当時の新聞を見るのが一番良いのではないのでしょうか。本学では“各新聞社の縮刷版”を所蔵しています。また余談ですが、かなり古い新聞を見たい場合は“マイクロ資料”で閲覧することも可能です。



(日本経済新聞 '68.8)

**Q** 臓器移植についていろいろなことがわかりましたが、最後に日本の臓器移植に関する活動が現在どのように行われているのか知りたいのですが……。



(各種検索サイト画面)

**A** 臓器移植に関する最新の情報を得るときは“インターネット”を使ってみましょう。各図書館には、オープン端末が設置されています。その端末から図書館関連情報、そして各種検索サイトへアクセスし適切なツールを選択します。“インターネット”では最新の情報を得るだけでなく簡単に幅広い情報を入手することができます。図書や雑誌と同じように上手に使ってみましょう。

なお、本学図書館ホームページのアドレスは (<http://opac.lib.ryukoku.ac.jp>) です。

## あの人について知りたい

**Q** 私は宝塚歌劇団のファンです。以前この宝塚に所属していた「上原まり」という方の略歴、及び現在はどのようにしているのかということを知りたいのですが。

**A** ある特定の人物の略歴等を調べるには“人名事典”や“人物事典”等を使います。例えば『人物レファレンス事典 現代編』（日外アソシエーツ）や『新訂現代日本人名録』（日外アソシエーツ）があります。また、「上原まり」さんが、元宝塚歌劇団の一員であったということまで分かっているのだとしたら、「宝塚歌劇団」の文献を調べてみても良いでしょう。

例えば、深草図書館には『長尾文庫』という社史・団体史を集めた文庫があり、その中に『宝塚歌劇の70年』（宝塚歌劇団）という文献があります。ちなみに長尾文庫にはどんな文献があるかを見たいという方は『長尾文庫目録 増補改訂版』（龍谷大学図書館）をご覧ください。



(宝塚歌劇の70年)

次に上原まりさんの現在の活動を調べてみましょう。  
現在または最近の活動を調べるには“新聞記事”や  
“インターネット”から情報を集めるのが有効です。  
例えば、インターネットの検索ツール『goo』

(<http://www.goo.ne.jp>)で「上原まり」と入力して  
みます。すると上原まりさんに関する情報がたくさん  
出てきます。そこから、上原まりさんは現在「琵琶奏  
者」として活躍していることが分かりました。

**Q** 上原まりさんはよく『平家物語』を題材に演奏しているようですが、この『平家物語』の概要を調べ  
たいのですが。

**A** 『平家物語』の概要について調べたい場合、  
“文学関係の事典”を使うのが有効です。

例えば『新潮日本文学辞典』（新潮社）や『日  
本古典文学大辞典』（岩波書店）があります。また、  
平家物語ほどの有名な作品でしたら“百科事典”で  
も調べることができます。一例としてここでは『ブ  
リタニカ国際大百科事典』（TBS-Britannica）を使  
用して調べてみます。この中に平家物語に関して『「平  
家物語」灌頂巻（かんじょうのまき）奥書覚一本 龍  
谷大学図書館所蔵』と写真付きで掲載されています。

このように、事典類の中には概要だけが記載された  
ものだけではなく、参考文献まで記載されているもの  
もあり、皆さんの資料収集を容易にしてくれます。



（ブリタニカ国際大百科事典）

**Q** 概要は分かりました。『平家物語』の中身を知りたいのですが、何か良い文献はないですか？

**A** 龍谷大学には『平家物語』に関する図書が多  
数ありますので“OPAC”で検索してみても下  
さい。文献の中には解説の付いている物もあり、初め  
て勉強される方でも容易に読めるものがたくさんあり  
ます。

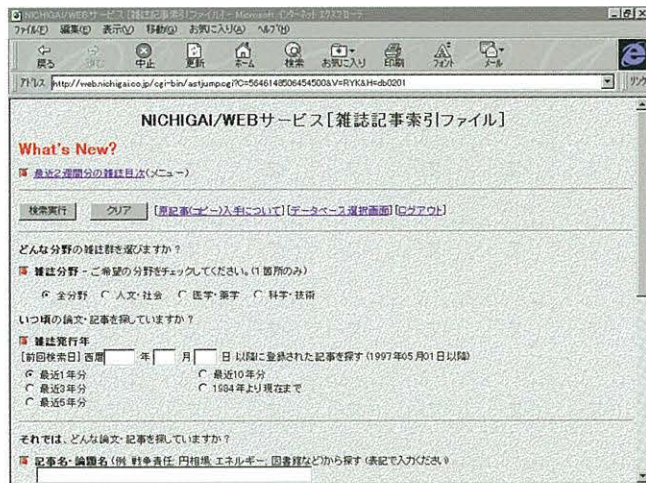
例えば、上記した龍谷大学所蔵の『平家物語 く覚  
一本』を基に作られた『平家物語 - 日本古典  
文学大系 -』（岩波書店）があります。

また、多くの文学者の書いた平家物語に関する評論  
や論文を読んで、自分の意見を固めていくのもいいで

しょう。評論や論文は図書としても多く発刊されてい  
ますが、ここでは雑誌記事を調べてみましょう。

雑誌記事を検索するツールは『雑誌記事索引フ  
ァイル』（日外アソシエーツ）が有効です。これは84  
年以降の雑誌記事を現段階で一番効率よく検索するこ  
とができるツールで、各図書館にあるオープン端末の  
本学図書館ホームページから外部データベースにアク  
セスし使用します。ここでは検索語を「平家物語」「覚  
一本」と入力します。すると書誌情報が表示されます。  
次にその検索結果の中に表示されている『古典遺産』  
という雑誌がどこにあるのかを調べます。“OPAC”  
で調べて書誌情報がない場合はカウンターまでお越し  
下さい。

参考までに、平家物語のような古典文学の文献を検  
索するのに便利なツールを紹介しておきましょう。そ  
れは『国書総目録』（岩波書店）や『古典籍総合  
目録』（岩波書店）です。この『国書総目録』は、古  
典籍の資料の一覧や所在場所の記載がされています。  
本学の大宮図書館には多くの古典籍が所蔵されており、  
中には世界に一つしかないというような貴重な資料も  
あります。学生の皆さんもこのような資料を「図書館  
貴重図書利用内規」に基づいて利用できるのです。



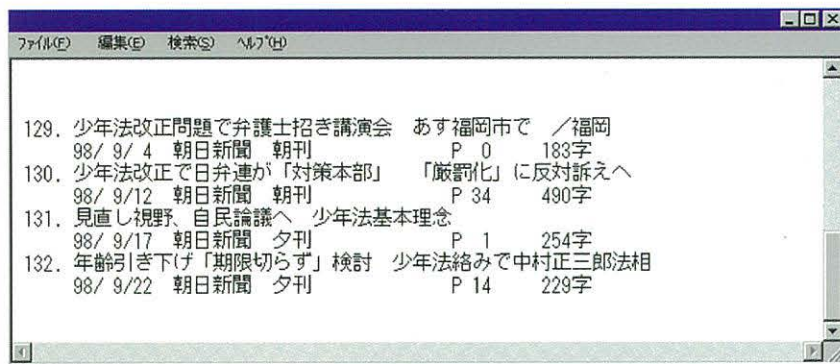
（雑誌記事索引ファイル）

## 少年法ってよく聞けれど……

**Q** 最近、「少年法の改正」に関する記事を新聞やニュースで頻繁に見たり聞いたりしますが、今までの法律では何が問題だったのか、またどう改正しようとしているんですか？

**A** 物事の経緯を知るための、有効なツールの一つとして、『日経テレコン』（日本経済新聞社）の新聞記事検索があります。この検索ツールは、日経4紙のほか主要新聞紙の新聞記事を検索することができます。ここでは、新聞は「朝日新聞」を選択し、検

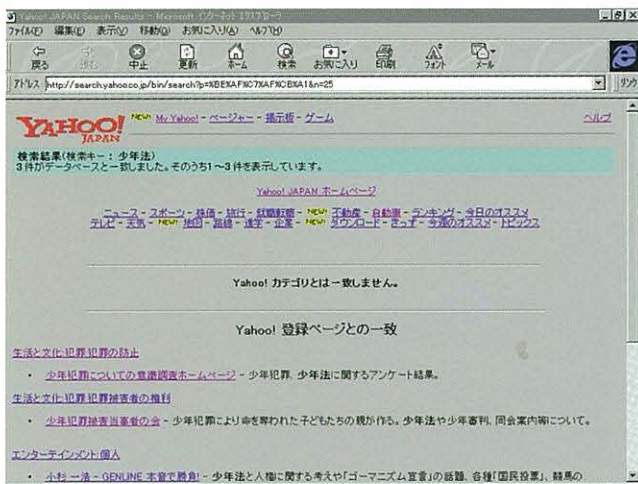
索語として「少年法」「改正」を、また最近ということでしたが、少し幅を広げて「96年以降」としました。すると、そのことに関する新聞記事が表示されます。（代行検索）



※もちろん見出しだけではなく、本文も見ることができます。

（日経テレコン検索画面）

**Q** これで、ということが議論されているのか、わかりました。先程の新聞記事の中で、「刑事罰の対象年齢引下げ」のことについても話し合われていましたが、それについての詳しい資料を得るにはどうすればよいですか？



（Yahoo! JAPAN検索画面 4/21現在）

**Q** 最後に、今まで、少年法を適用した判例情報について教えてください。

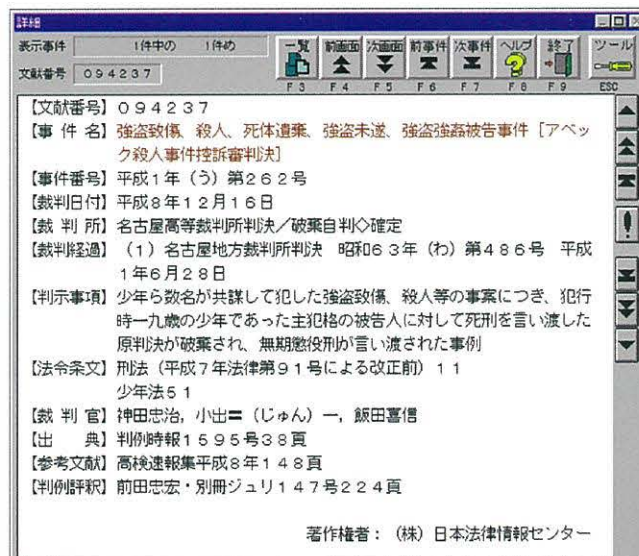
**A** この場面では、『CD-ROM版 リーガルベース』（日本法律情報センター）が有効です。（深草図書館のみで利用可）これには、今までに発行された判例集、判例雑誌に掲載されている判例を収録しています。キーワードだけでなく法令条文や裁判日

**A** ここでは、『雑誌記事索引ファイル』（日外アソシエーツ）や『法律判例文献情報』（第一法規出版）の冊子体やCD-ROM版（深草図書館のみで利用可）を使って検索します。そこで得た書誌情報をもとに“OPAC”で、それらの雑誌を探し出しましょう。本学にその雑誌がなければ、カウンターまで相談にきて下さい。

また、別のアプローチとして“インターネット”があります。例えば『Yahoo! JAPAN』（<http://www.yahoo.co.jp>）の検索語を「少年」「犯罪」「少年法」などで検索してみましょう。それに関するホームページが表示されます。

付などからも検索でき、判決の内容の要約や判決理由の本文をみることができます。ここでは、法令条文から検索してみましょう。まず、少年法といっても少年法の第何条を適用した事例を知りたいのかを明確にする必要があります。次に、『六法全書』（有斐閣）で

それを調べ確認します。そのうえで入力すれば的確な判例情報を得ることができます。また、出典情報も掲載されていますので、より詳しいことを知りたい時は、その出典物を見てください。また、『法律判例文献情報』も利用してみてください。これも、『リーガルベース』と同じように第何条についての判例情報を知りたいのかははっきりさせれば、容易に情報までたどり着くことができます。



(リーガルベース検索画面)

## なんだったの？バブル経済

Q

バブルって、何ですか？その言葉の意味を調べたいのですが……。

A

言葉の意味や語源を調べるのにもっともふさわしいツールは“辞書・辞典類”“用語解説書”等です。

バブルといえば経済の用語ですので、経済関係の用語辞典を探すのが有効です。例えば『経済新語辞典』

(日本経済新聞社)、『経済用語の基礎知識』(自由国民社)などを調べてみるのが良いでしょう。また、皆さんの良く知っている『imidas』(集英社)や『現代用語の基礎知識』(自由国民社)といった用語解説書も便利なツールの一つです。

Q

バブルの意味は分かりました。ではバブルはどのように形成されてどのように崩壊していったのでしょうか？

A

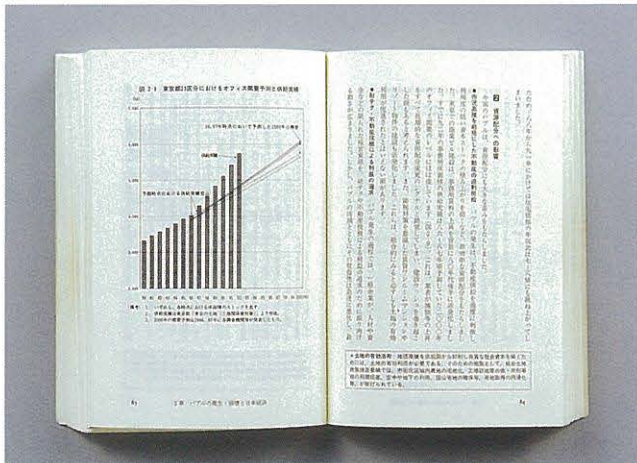
バブルの形成から崩壊という時代の流れに沿って物事を追っていくには、その物事の流れを一覧できる“年表”や、年代ごとにデータがまとめられていてそれぞれの年代を比較することができる“白書”や“年鑑”が有効です。

例えば年表では『年表で見る日本経済の足どり』

(財経詳報社)、白書・年鑑では『経済白書』(大蔵省印刷局)『解説経済白書』(東洋経済新報社)、『日本経済の現状』(学文社)等があります。また、自分がどのような年表や白書を見るべきか分からない場合は『年表情報集覧』(大空社)、『白書の白書』(木本書店)、『日本の白書』(清文社)等の“書誌”を見ると良いでしょう。

また、“インターネット”で情報を集めるのも良いでしょう。

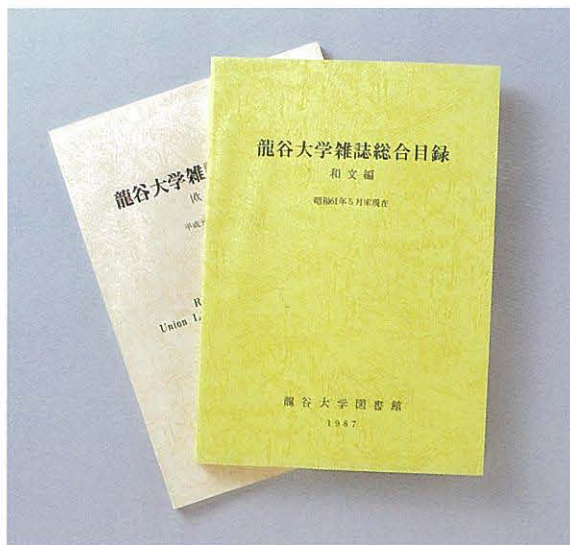
例えば、『Yahoo! JAPAN』を使って、検索語を「バブル」「形成」「崩壊」と入力すると、その検索結果の中に『国府台経済研究第六巻』という見出しを発見できます。(4/21現在)そこにアクセスすると、「バブル期とその崩壊期における金融機関の貸出行動の実証的研究」という論題の下に「日本のバブル経済の形成と崩壊」という論文を見つけることができます。では次に、この『国府台経済研究第六巻』が本学の図書館にあるかどうかを調べましょう。これは図書館の



(解説経済白書 平成5年版)

## “OPAC” か、『龍谷大学雑誌総合目録 和文編』

(龍谷大学図書館) で検索します。その結果、この雑誌は社会科学研究所にある事が分かりました。この社会科学研究所とは深草学舎の図書館とは別の建物にある研究者のための施設ですが、学部生の皆さんも利用することができますので、深草図書館の2階カウンターで手続きをして閲覧に行ってください。



(龍谷大学雑誌総合目録)

Q

最後に、バブルの崩壊は世の中にどのような影響を与えたのかが知りたいのですが。

A

ここでは、“雑誌の論文記事” からアプローチしてみましょう。

まず雑誌の記事検索ですが、主なツールとしては、冊子体のものでは『経済学文献季報』(紀伊國屋書店)、『雑誌記事索引 累積索引版』(日外アソシエーツ社)等、またインターネットを使った『雑誌記事索引ファイル』(日外アソシエーツ社)などが有効です。これらを使って雑誌に掲載されている論文記事が検索できます。

とりあえず、ここではバブルの崩壊した93年の記事

を『経済学文献季報』を使って検索してみます。自分の読みたい論文タイトルを探し、見つければその論題の下に表示されている雑誌名・巻号・ページ数・出版年を控えます。

次に、その雑誌が龍谷大学の図書館にあるかどうかを調べます。もし、その雑誌が龍谷大学に無ければ、今度はどこにその雑誌があるのかを調べます。そのツールが『学術雑誌総合目録 和文編』(丸善)です。見つければカウンターまでお知らせ下さい。

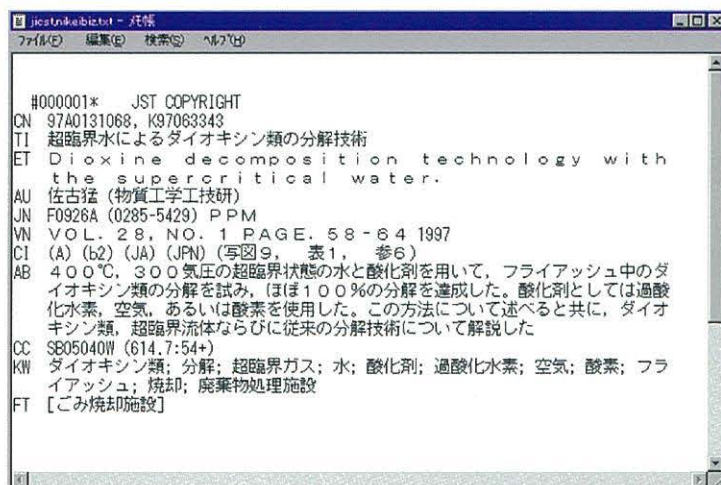
その他に……

Q

科学技術文献を探すのに便利なツールはありますか？

A

国内外の科学技術に関する文献や研究テーマ情報を日本語の抄録付きで紹介する検索ツールで『JICSTファイル』(科学技術振興事業団)があります。(瀬田図書館のみで利用可)



(JICSTファイル検索画面)

上記したツール以外にも皆さんが学外の資料を検索する際に便利なツールとして『Nacsis-Webcat』や『学術雑誌総合目録』などもあります。図書館は皆さんが思っている以上に便利なところですよ。是非、図書館を自分のものにして下さい。そして知りたい情報をいろいろなツールを使って探してみましょう。

ここで使われたツールは初めての人が使うには、難しいと思われるものがたくさんあります。(特にコンピュータを使っての検索)でも、そんなときはためらわずカウンター、または図書館員まで気軽にどんどん質問してください。もちろん代行検索も行います。私たち図書館員は大歓迎です!!また、ここで紹介したツールが3館にすべてあるとは限りません。詳細はライブラリーガイド、又は各図書館カウンターで確認ください。

## 第三の教室

志津木 敬

近ごろ、第三の教室として大学図書館といった発想が許されてもよいように思えてきた。

昨年10月の大学審議会答申では課題探求能力の育成が指示された。総合化、学際化、境界化が奨励されている点では、教養教育の充実を各大学に要求したものとみてもよい。

現代における教養教育の課題には、二つの文化の克服が挙げられている。いわば教養教育は攻守所を変えるところから行われるともいい得る。

しかしこれは大教室や演習室、研究室、ロビーでは実現不可能な課題である。

先生は閉架書庫に直行するのではなく開架書庫に立ち寄ってみる。あるいは基礎演習の補講として、学習室を利用し、あえて異分野の読書に勤しみ、勤しませる。

学生は文献検索機に悪戦苦闘していらっしゃる老先生に手を差し伸べる……。大学図書館ならば教養の第一歩である攻守所変えは案外と実現しやすい。

単位制度の充実に大学図書館は必要不可欠な存在である。単位制度がカレッジ教育における産物であることからすれば、大学図書館は教養教育の担い手としての顔をもっているといえる。そもそも、文系と理系双方が並び立っている場所は学内では大学図書館をいって見当たらない。

龍谷大学における大学教育の主眼は、学士課程教育とリカレント教育の充実にある。それだけに大学図書館を第三の教室とみなす発想をご検討いただければ幸いである。

(’96年3月大学院法学研究科修了)

## 私にとっての図書館

江坂 信幸

図書館とは私にとって、一体どういう場所であったのでしょうか。

学部生の5年間、院生としての2年間、図書館に御世話になりました。私と図書館との出会いは、新入生図書館オリエンテーションがきっかけでした。図書館員が親切丁寧に説明して下さり、その後、ゼミの先生は「図書館を利用しなさい。」「とにかく図書館へ足を運びなさい。」とアドバイスして下さいました。その教えに従い、講義の合間や放課後には足がしだいに図書館の方へと向かうようになりました。そして、図書館へ行くことが習慣となった頃には、普段何とはなしに見ている辞書類や専門書の所在が手に取るようにわかるようになったのです。このようにして私の図書館の利用頻度は増し、レポート、卒業論文、そして修士

論文とそれぞれを手がけていく上で図書館が重要な位置を占めていたのは言うまでもありません。

他に図書館の利便性としては、視聴覚室の利用が挙げられます。これは語学教材は勿論のこと、専門教材も揃っています。洋画やCDもありますので、勉強の合間の休憩にも適しています。また、最近ではインターネットの利用も可能になりました。

皆さん、私が入学した7年前と比べて図書館は格段に使い易くなっています。この楽しさを皆さんも体験してみてはいかがでしょうか。

最後に、私にとっての図書館とはいろいろな意味で学生生活そのものであったと言えるでしょう。

(’99年3月大学院文学研究科修了)

### 編集後記

まだまだ?! 図書館員若葉マークの3人組も今回の特集に携わって、いろいろな図書館の歩き方を一緒に学ぶことができました。感謝感謝!! です。(斉藤・新開・城地)

### エッセイ募集

次号(12月発行予定)に掲載するエッセイを募集します。図書館をテーマとしたエッセイ(600~650字)なら、なんでも結構です。

\*採用された方には図書館オリジナルテレカを差し上げます。

詳しくは図書館カウンターまでお立ち寄り下さい。

### 龍谷大学図書館報『来・ぶらり』第20号

1999年6月発行

編集・発行 龍谷大学図書館

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

☎075-645-7885(ダイヤルイン)